

【目標】

- ◆住み良いまちづくり
- ◆環境の浄化運動
- ◆あいさつと親切運動

《編集・発行》

西根地区社会福祉協議会

にしね福祉

震災十四年後の女川を訪ねて

西根地区社会福祉協議会

会長 小山 三枝子



令和七年は、クマ騒動に明け暮れた一年でした。雪が降っても出て来るクマがいて、信じられない光景がニュースになっていきます。自然界に大きな変化が起きているようで、心配です。

さて、本協議会は、今年度、主に次のような活動を行ってきました。

- ・ 会員研修会 — 情報を得て今後に生かす —
「女川の街歩きと女川原発視察」
九月二十四日(水) 福祉バス使用
 - ・ 一人暮らし高齢者ふれあいの集い
「津軽三味線流れ星による演奏と煮御膳・動物園」
十月二十二日(水) 日田公民館・チェリーランド他
 - ・ 高齢者ふれあい交流会
「アリオンのギター演奏会」
十一月十二日(水) 日田公民館
 - ・ 民生委員児童委員と福祉推進委員の合同研修会
「地域で元気に暮らすために」 地域包括支援センター
令和八年二月四日(水) ハートフルセンター
- 昨年、東日本大震災から十四年目の年でした。会員研修は、女川を訪問して、語り部さんのお話を聞きながら町

を歩いてきました。町はきれいに整備されていましたが、人口が大きく減少していることが大きな課題になっていました。若い人は隣の石巻市に家を建て、仕事に通ってきている人が多いようでした。また、高台に家を建てたために町に出掛けづらくなり、買い物も不便になっていました。町に活気が戻ってこない悩みもありました。

次に、女川原子力PRセンターを見学してきました。高台に立地されていて、災害に備えていました。安全な運転について詳しく説明をしていただき、帰りには敷地内で育てたリングを記念にいただきました。ほとんどの方が初めての訪問で、大変勉強になりました。私たちが住む西根が、安全で安心して住み続ける地域になるために、地区社協としての取り組みのあり方を考えさせられた一日でした。

今年度も、地域の皆様方には、当協議会の事業運営に対しまして、温かいご理解とご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。地区社協として、これからも近所付き合いを大切にして、お互いさまの精神で関係を継続していくことを第一と考えています。今後とも、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



女川駅にて

西根っ子とともに学んでみませんか

西根小学校 教頭 柏屋 博之

西根小学校のコミュニティ・スクールも今年で六年目。日々の給食ボランティアをはじめ、町たんけんやさくらんぼ学習など、地域の方々は、西根っ子の学習や学校生活のために多大なるご尽力を賜り、充実期を迎えているところです。

コミュニティ・スクールと一体的に推進している「地域学校協働活動」について文科省は、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動と提言しています。言い換えれば、学校だけがメリットを感じる一方の学校支援だけではなく、地域の方々にとってもやりがいや学びがいがあり、それが地域の元気を生み、地域づくりにつながるという地域のメリットにも目を向けた活動が「地域学校協働活動」なのです。

西根小の地域学校協働活動も、地域の方々が学校に協力する（学校支援）だけではなく、地域の方が二年生の「町たんけん」で一緒に地域のことを学んだり、五年生と一緒に個人では入れない「NHK山形放送局」を見学したり、四年生と一緒に遠足（山形方面）に行ったり、四・六年生のクラブ活動と一緒に活動を楽しんだりなど、地域の方々が西根っ子とともに学んだり活動したりする機会を提供してまいりました。しかし、毎月発行の学校だより「西根っ子」にご案内させていただいておりましたが、まだまだ多くの方にご参加いただけないのが現状です。

今後とも地域の方々に参加してみたいと思える魅力的な活動を紹介していきたいと考えています。ぜひ西根っ子とともに学んだり活動したりしてみませんか。

今年のクラブ活動には、寒河江市社会福祉協議会の新田ゆいさん（西根小出身）より様々な活動の先生をコーディネートしていただきました。



PPテープ工作 ちぎり絵 折り紙 アロマスプレー作り

あそびがまなび

認定こども園寒河江にしねこども園 園長 鈴木 普生

令和七年四月一日、いよいよ認定こども園寒河江にしねこども園が開園しました。子どもたちは、新しい園舎に喜びも戸惑いもありながら、今では園生活を十分に楽しんでいる様子があります。

当園は今年度、子どもたちが主体的に活動し、「あそびがまなび」になるために必要な保育環境について、一年間考えて実践して参りました。その中で、職員一人ひとりが、日々子どもたちの事を考え、試行錯誤しながら環境を構成してくれていることを大変頼もしく感じております。育ってほしい姿を思い構成された環境の中で、子どもたちは造形遊び、身体を動かす遊び、ごっこ遊び等様々な遊びを創り出します。園庭では築山の斜面をおしりで滑る遊びがありました。意図的なおしり滑り用のコースは用意していませんでしたが、子どもたちは滑りやすい場所やより急な斜面を見つけ、自分たちで滑る場所をつくり出したのです。子どもたちの豊かな発想と創造力にいつも驚かされているのと同時に嬉しい気持ちになります。他の遊びの時も、どうしたらもっと良くなるのか、どうしたらできるのか、子どもたちが自分自身で、或は周りのお友だちや大人と一緒に考え、自分なりに挑戦している姿があり、遊んでいながらもたくさんのお話を学んでいます。

「あそびがまなび」になるには、必ず保育者の援助と、子どもたちの姿に合わせて環境を再構成していくことが必要だと考えています。私たちは引き続き「あそびがまなび」になるよう日々考え、子どもたちにとってより良い環境となるように努めてまいります。



おしりで滑る遊び

学びある学童

寒河江市学童保育ねっこクラブ 指導員 後藤 香織

学童での生活は主に放課後ですが、夏休みなどの長期休みは朝八時から夜十九時までの一日保育となります。一日保育には「活動」の時間を設けており、制作活動を行っています。

季節に合わせて選定し、夏にはうちわ、冬にはミニ門松やコマの絵付けをしました。制作活動の中には、折り紙も必ず入れるようにしていて、今年には千支にちなんだ馬を折りました。

学童は異学年で生活し、上学年がリーダーとなり下学年の手本になります。その姿を見て下学年は自分が先輩となった時、同じように優しくすることが出来る：そういった誰に教えられたか明確ではないが出来るようになっていたり、他者に優しくできる心、説明できる力が自然と学べているところが学童の良いところだと思います。

これからも学童が、子ども達にとって学びの場となり、安心安全に過ごせる生活の場としていきたいと思えます。



折り紙遊び

共に歩む、いつか行く道...

民生委員・児童委員 小林 弘子

一昨年の夏頃の話です。隣人の美容室のAさんが、私に店に来てほしいと言っています。急いで行ってみると、玄関に見かけたことのない高齢の女性が座っていました。迷子になったようなのです。その女性は一度店を覗き込んだ後、道路に出て歩き出しました。心許ない足取りに大丈夫かと思ったAさんは、店で休むように声を掛けて連れて来ました。汗びっしょりの女性に水を飲ませ落ち着かせた後で、何処に行くのか家は何処なのかを聞きました。持ち物から、ようやくわかった自宅へ電話連絡をして、家族が迎えに来てくれることになったそうです。私がお店に行った時には、その女性への対応が終わっていました。それでも、心配になって、私に声を掛けてくださいました。なんでも、美容師さん方の研修会で、認知症と思われる方への接し方を知る機会があり、そのことを思い出して実践されたのです。自分だったら出来たでしょうか...

認知症への理解を深めると共に、認知症の方やご家族を温かく見守り支えらる一員でありたいと思えました。

地域の皆さまに感謝を込めて

西根小学校PTA会長 三宅 和也

日頃より、地域の皆さまには本校PTA活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。子どもたちは、学校だけでなく、地域の方々との関わりの中で多くのことを学び、成長しています。登下校時の見守りや行事へのご協力、温かい声かけ一つひとつが、子どもたちの安心と笑顔につながっています。

近年、社会環境の変化により、地域のつながりの大切さが改めて見直されています。福祉は特別なものではなく、日常の中での思いやりや支え合いの積み重ねだと感じています。PTAとしても、学校・家庭・地域が手を取り合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりに微力ながら貢献していきたいと考えております。

今後とも、子どもたちを中心にした温かな地域の輪を、皆さまと共に広げていければ幸いです。



賑わいと世代間交流の場を目指して

宝公民館長 早川 勤也

長かった「コロナ巣ごもり生活」が明けた令和五年、当館主催行事である「ビアガーデン」と「文化祭」も復活を果たしました。しかしながら、どちらも往時の賑わいを取り戻すまでには至らず、併せて現代社会の大きな課題でもある地域での世代間交流の希薄化も顕在化していました。

そこで、今年度の両行事の計画策定にあたっては、若手中心の実行委員会を立ち上げ、賑わいの復活と世代間交流に資する企画を検討した結果、ビアガーデンでは、子供も大人も参加できる種飛ばし大会や屋台村の実施、文化祭ではバルーンアート教室の開催等の実施により、両行事とも前年を大中に上回る賑わいと、世代間交流の進展にも幾許かの寄与ができたのではないかと考えております。

これを機に次年度以降も地域の賑わいと世代間交流の場づくりに尽力できれば幸いです。



種とばし大会

自分の孫を見守るような気持ちで

寒河江市防犯協会

西根支部長 鈴木 精二

皆さんは、車の屋根にパトカーとは違った青い回転灯を付けた車を街で見かけることがあると思います。これは「青パト」と言って防犯や交通安全の為に、地域の人が見回り活動を行っているのです。当西根支部では、七名のメンバーが、主に小中学生の登下校時に見守りを行っています。

子どもたちと挨拶を交わす機会があった時、明るい元気な返事が返ってくると、こちらでも元気を貰えて嬉しくなります。『心にゆとり』ができ、街が明るい雰囲気になり、地域で犯罪が起きにくくなることに繋がってゆくのではないかと思います。

なるべく犯罪や事故に巻き込まれないようにすることも大切です。そのための見回りも行っています。「ホットスポットパトロール」と言って、あらかじめ犯罪が起きやすいような場所を不定時に巡回をしています。

これからも、より明るい西根地区になるよう、自分たちの孫を見守るような気持ちで見守り活動を継続していきたいと思えます。



下校時の見守り

◆◆◆◆あ と が き◆◆◆◆

「にしね福祉」第82号をお届けします。

今号は、地域内の福祉関連団体の皆さんから、日ごろ感じていることについて自由に意見や感想を寄せいただき、掲載させていただきました。ありがとうございました。

今年度は、コロナ感染が落ち着いたとはいえ、まだまだその影響がありました。さらに、インフルエンザの流行が増え、学校閉鎖などもたびたび話題に出てきました。集会活動を躊躇した団体も多くあったようです。そんな中ではありましたが、本協議会の活動が、地域の皆様のご協力により予定通り実施できましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。(鈴木)

「にしね福祉」編集委員

- | | |
|-------|----------|
| 小山三枝子 | 会 長 |
| 加藤 国彦 | 副会長 |
| 高橋 保 | 幹 事 |
| 丹野 和之 | 会 計 |
| 鈴木 寛 | 幹事補 |
| 齋藤 智子 | 民生委員児童委員 |
| 芳賀 登 | 下河原公民館長 |
| 柏屋 博之 | 西根小学校 |